

年次	通		書留		小包		價格表記		合計	
	引受	配達	引受	配達	引受	配達	引受	配達	引受	配達
新豐橋驛	昭和六年	八六、二九八	二七、四三四	七九、一六八	二、四八四	三、九二二	四四〇	一、六八四	三七、〇二七	
	昭和五年	一〇三、六四五	三五、九一四	一〇八、五九六	三、八八六	四〇〇、八七	五三五	二、一五六	四、一四〇	
	昭和四年	一三七、一八七	四、九九三	一三六、六九四	三、八八二	五五、四九〇	六八八	二、三三一	五、七二〇	
	昭和三年	二二七、九一八	四九、一四七	一五一、八一四	三、四四六	五五、九二二	六五一	二、八四八	六、〇九八	
昭和二年	二五、〇七二	八、〇七三	三、一七七	二九二	四、一三七	六二	三九	七、四五四		
柳生橋驛	昭和六年	四二、二二五	八、八五八	二九、七〇四	一、〇九〇	一八、三六三	三四五	八三二	一三、七二七	
	昭和五年	四九、七六四	一〇、四八五	三七、二〇七	一、二五七	二二、一七二	三三八	九〇二	一四、四三七	
	昭和四年	六九、〇四一	一五、九〇一	四八、七七八	一、五三八	二八、二〇七	四一〇	一、三九二	二、七六四	
	昭和三年	七二、八八七	一九、四三三	七二、八八七	一、五六四	三〇、一九九	三三三	一、二二七	三、〇九七	
昭和二年	八二、〇八五	二二、六〇三	四四、七七一	一、〇五五	二〇、八〇七	二二〇	五六六	一〇、六一九		
昭和三年	三三、一四三	一三、九七四	一一、九九八	一、一八二	二、五三二	二九九	八六九	一三、三二一		
	二八、二八四	三九、四五三	一〇八、二七三	三、七七〇	八七、四七七	八二〇	三八六三	一八、三四六		

豊橋市内各郵便局郵便物

年次	内國		爲替		外國		爲替		計	
	振出	金額	振出	金額	振出	金額	振出	金額	振出	金額
昭和六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
昭和五年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
昭和四年	一三、三六六、〇七二	一、六〇、七一一	一四、五、九六七	一四二、九三九	一四、七二五	一、二七、三五二	三、〇五三	四、五七九	—	—
昭和三年	一四、八三〇、六四三	二、三七四、六九三	一五〇、六二六	一五五、〇三三	一一、四〇〇	一三八、六七二	三、三〇一	三、九四六	—	—
昭和二年	一三、六六二、七三〇	九、七七、八八〇	一四六、四〇六	一五六、一八	一二、九〇三	一四二、二八三	三、三八六	四、〇四二	一、三、一三四	一、四六二、六九三

豊橋市内各郵便局郵便爲替

年次	内國		爲替		外國		爲替		計	
	振出	金額	振出	金額	振出	金額	振出	金額	振出	金額
昭和六年	五九、四五四	一、四五六、七八三	一、二七五、六〇〇	三五	一、八四八	一六	四、四九、四八九	一、四五六、六三二	一、二七六、〇二四	—
昭和五年	六一、七四四	一、五六一、一九〇	一、四〇四、三八八	二八	一、七六七	三	一、九八七、六一、七三二	一、五二七、九五九	一、四〇六、三七五	—
昭和四年	六三、六四六	一、七九三、三〇五	一、五五、一六五	四三	一、五五三	三三	一、〇五六、六三、六八九	一、七九四、八四六	一、五二六、三二二	—
昭和三年	六〇、一四九	一、七二一、〇七六	一、四八一、五三六	三五	九〇五	三八	七四〇、六〇、一八四	一、七二一、九四三	一、四八一、二四〇	—
昭和二年	六一、五七三	一、七六四、六三二	一、五五九、一三三	一一四	四、〇六九	四八	二、〇七四、六一、六八七	一、七六八、七〇〇	一、五六一、二〇六	—

豊橋市内各郵便局郵便貯金・振替貯金

年次	郵便		貯蓄		振替		貯蓄	
	預入金	口數	振出金	口數	振入金	口數	振入金	口數
昭和六年	一八二,二〇〇	三,三五四,六三二	二,九八八,八〇〇	三〇,四二七	九〇,三六三	六,一八一	四六三,二二一	四六三,二二一
昭和五年	一八三,一九一	三,四九七,四七四	二,六六六,四〇三	三,五九三	八七,三〇八	五,八四二	四八三,一九七	四八三,一九七
昭和四年	一七七,〇五	二,七八八,六三八	二,三三四,〇三三	三,三三三	八五八,八〇〇	五,八八四	四九八,七四九	四九八,七四九
昭和三年	一六二,三五〇	二,三〇七,四五二	二,〇三七,〇〇六	三〇,一三九	八七九,八五三	六,〇一一	五一五,三〇四	五一五,三〇四
昭和二年	一四四,四九九	二,四〇二,一七六	一,八四八,一五六	二八,二四四	八三一,四四二	四,九九〇	五一〇,九一五	五一〇,九一五

豊橋郵便局郵便切手・葉書・收入印紙賣捌高

年次	郵便切手		郵便葉書		收入印紙	
	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額
昭和六年	八,五〇九,五四	三七九,八六,五九三	八,三九八,七五六	二二,九六,一六三	一,一三四,五四八	二七四,〇〇四,三〇〇
昭和五年	八,七三二,一七九	四〇三,九六,三八〇	八,七三二,五四一	二二,一四六,一一五	一,一三五,九七	三〇二,七五三,三九〇
昭和四年	九,五七六,七二一	四三五,二八,六三五	八,九四九,三〇七	一三〇,二九六,九八五	一,三〇八,一三三	三五三,一五七,二四〇
昭和三年	九,二七七,九九四	四三四,九五,六三五	九,八二四,五〇三	一四三,一三,〇五〇	一,二七七,五二〇	三三三,六二八,二一〇
昭和二年	七,八七四,四六六	四〇二,〇八,三〇〇	一〇,一六六,六六〇	一四七,九四六,〇三五	一,四四九,三九三	三四二,九四四,三〇〇

年次	單獨加入者數		市内通話數		市外通話數		市外ヨリ通話數	
	昭和六年	二,六九二	一六,二二〇,九九五	一三,二九五,五六一	四四六,五五二	四八〇,五二二	四六二,三二八	四六二,三二八
昭和五年	二,六九二	一三,二九五,五六一	一三,五六五,六七二	四四五,七九七	四二四,一四〇	四八〇,五二二	四八〇,五二二	
昭和四年	二,六八一	一一,三六一,〇五九	一一,三六一,〇五九	四一一,一八四	四一四,一四〇	四八一,二四五	四八一,二四五	
昭和三年	二,一六七	八,二八五,六七九	八,二八五,六七九	三四一,一九二	三四一,一九二	四三九,九九二	四三九,九九二	
昭和二年	二,一六三	八,二八五,六七九	八,二八五,六七九	三四一,一九二	三四一,一九二	三七〇,〇九七	三七〇,〇九七	

豊橋郵便局電話通話數

年次	國內				國外			
	發信	着信	中繼信	料報	發信	着信	中繼信	料報
昭和六年	一三七,一九七	一七六,三四一	九三,五九一	四八,六二九	三一八	二七九	二二	一,〇三三
昭和五年	一六一,〇四二	二〇二,六〇五	一〇二,三二〇	五七,五九二	一九六	一七七	一五	四〇六
昭和四年	一六五,二〇六	二〇七,一七五	一一三,三九〇	五九,九一四	一四七	一八五	二二	二七三
昭和三年	一八三,四一一	二一九,五三九	一一〇,三三四	六六,三六三	一八五	三〇七	三九	三二二
昭和二年	一八四,七七四	二一九,八三五	一一三,九九二	六五,九五八	一一一	一一〇	三一	二二二

豊橋郵便局電報發着數

## 宗教教育

教育機關—學級數—兒童數—秀才教育施設—  
宗教心の陶冶—神社—寺院—古建築

我が豊橋市の教育は、輓近著しく進歩發展の域に達したのであるけれども、一般の状況に就き殊に施設上の事に關しては、之れを大勢の上より觀察するならば、未だ到底満足する事は出来ないのである。本年四月現在によれば市内には縣立豊橋中學校、市立商業學校、市立高等女學校私立豊橋商業學校並に舊市外下川村の豊橋第二中學校を始め

豊橋高等小學校…岩田尋常高等小學校…花田尋常小學校…八町尋常小學校…新川尋常小學校…東田尋常小學校  
松葉尋常小學校…狹間尋常小學校…松山尋常小學校  
の九小學校を、補習教育のため設けられた商業專修學校、女子商業專修學校、中部公民學校、東部公民學校、裁縫專修學校、此の外豊橋裁縫女學校、豊橋松操女學校、豊橋實踐女學校、盲啞學校、幼稚園、豊橋速算學校、豊橋看護婦學校、助産婦看護婦學校、市外小池の愛知和洋女學校の私立學校がある。此

外に市立圖書館、動物園あり更に教育關係の事業を企劃實行し、又は直接教育の研究を目的とする市教育會並に教育協會、その他修養訓練を目的とする青年團及び青年訓練所がある。縣立、市立の中學校及び特殊の學校を除いて、以上公立小學校の學級數は二百四學校、兒童數一萬二千三百六十五人であつて、之れを男女別にすると、男一六千三百一十一人、女一六千五百四十四人、而も年々増加する兒童は著しく、既設の校舎は忽ち狹隘を告げるので、年々校舎の増設を行つて居る有様である。各學區毎にある青年團は漸次良好なる發達を見るに至り、殊に青年訓練所は指導其の宜しきを得て査閱官より他の模範たるに足るを稱讚されてゐる程であつて、訓練所は七百餘名を算してゐる。

次に財團法人豊橋育英會は昭和二年十月設立せられ、將來有爲の人材を養成するため、廣く育英資金を募り、學資の關係上廢學ならんことを者に貸費補給を爲し、更に進んで右補給生及び豊橋出身の學生の爲めに、全國六大都市に寄宿舎を設立し、各自の負擔を減じ、向學の便を圖るべく目下計畫を進めてゐる。その他生活の改善を高唱し、社會に貢獻する所極めて大なるものがある。其の外水練會、少年野球協會を始め、幾多の教育及び學術研究會が行はれ、何れも相當効果を收めてゐる。

次には宗教方面であるが、豊橋市民の宗教心は果して如何に陶冶されてゐるであらうか茲に之れを具體的に述ぶる事は却々困難であるけれども、比較的正しい批判力の下に、自由信仰の態度を取つてゐる

様に見受けられるのは、何んもなく嬉しい感じを起させる。而して本年四月現在市内に於ける神社の数は三十六社で、其の内縣社が二社、郷社が三社、村社が十六社、無格社が十五社、尙寺院は總て六十二ヶ寺、之れを宗派別にするに、曹洞宗―二十二ヶ寺、淨土宗―二十ヶ寺、顯本法華宗―二ヶ寺、眞言宗―五ヶ寺、天台宗―一ヶ寺―臨濟宗―四ヶ寺、眞宗―七ヶ寺、外に眞宗大谷派本願寺別院の一ヶ所、其の他神道教會―三十一ヶ所、佛道教會、同説教所―八ヶ所、基督教會―五ヶ所、言ふ状態である。然し飽海時代即ち鎌倉期以前に於ける神戸（今の豊橋地方を言ふ）のものとしては、中八町縣社神明社、羽田御厨のものとしては、湊町の郷社神明社並に薑御園のものとしては、東田町の郷社神明社などが顯著なもので、尙飽海時代に創立された神社には、關屋町縣社吉田神社、東八町村社八幡神社、花田町郷社八幡社、岩崎町村社神社、次で岩田町村社神明社、魚町安海熊野神社、新錢町村社白山比咩神社、岩崎町村社鞍掛神社の八社あり、寺院には西竺寺、妙徳寺、正琳寺等があつたけれども、多くは既に廢滅に歸し、今日遺跡の残つてゐるものは獨り正琳寺のみである。又建築の最も古いものを謂へば、寛文元年の建設に係る龍拈寺の鐘樓、次に延寶二年の建築で新錢町天神社の拜殿、夫れから貞享二年で神宮寺の本堂、元祿二年で龍拈寺の觀音堂、同六年で龍拈寺の三門、同七年悟眞寺の本堂同十年神宮寺の三門同末年淨圓寺の庫裡などである。淨圓寺の本堂も元祿以前の様に傳へらるゝが如何せん明確でない。外

に神宮寺の護摩堂は寛永二十年、別院の鐘樓は同二十一年の建築であるが、何れも後世の修繕が著しく原形を残してゐる部分は少ない様に考へられると同時に、之れを純の藝術として誇るに足るものは殆んどない。

豊橋市立各學校

(昭和七年四月末現在)

校名	學級數	教員數		計	生徒數 (兒童)		計
		男	女		男	女	
商業學校	二〇	三三	一	三三	八九六	一	八九六
高等女學校	一七	二二	九	三一	八二二	一	八二二
豐橋高等小學校	二〇	一九	五	二四	四六四	一	二〇一
岩田尋常高等小學校	一四	一四	三	一七	三二二	一	六五四
東田尋常小學校	一八	一五	五	二〇	五九八	一	一、一六六
八町尋常小學校	二四	一九	八	二七	六八六	一	一、三四二
松葉尋常小學校	二五	二二	五	二七	七八三	一	一、六〇八
花田尋常小學校	三三	二八	九	三七	一、〇二五	一	二、〇五二
狹間尋常小學校	一九	一四	七	二一	五二四	一	一、一一二

豐橋市附近私立學校

校名	學級數	生徒數
豐橋中學校	二〇	八九五
豐橋第二中學校	一五	六三一

縣立學校

校名	學級數	男教員	女教員	計	男生	女生(兒童)	計
豐橋速算學校	一	三	一	四	一	一四	一四
豐橋病院附屬 豐橋看護婦學校	三	七	一	八	一	七〇	七〇
烏居病院附屬 產婆看護婦學校	八	二	一	三	一	一三八	二六四
豐橋幼稚園	二	一	一	二	一七	一四	三一
旭幼稚園	二	一	一	二	一六	二二	三八
小百合幼稚園	二	一	一	二	一六	二二	三八

豐橋市立私立各學校幼稚園

校名	學級數	男教員	女教員	計	男生	女生(兒童)	計
松山尋常小學校	二	一七	六	二三	六三八	六一三	一二五
新川尋常小學校	三〇	二	三	五	九七八	一〇〇一	一九七九
商業專修學校	二	八〇	一	八一	八八	一八一	一八一
女子商業專修學校	四	八	一	九	一〇三	一八一	一八一
中部公民學校	四	八	一	九	一〇三	一八一	一八一
東部公民學校	二	五	一	六	三一	一	三一
裁縫專修學校	四	五	一	六	一	一九	一九
豐橋商業學校	一	九	一	一〇	四〇	一	四〇
豐橋高等裁縫女學校	五	五	一	六	一	二八〇	二八〇
豐橋松操女學校	四	六	一	七	一	一七〇	一七〇
豐橋實踐女學校	六	八	一	九	一	二一六	二一六
豐橋盲啞學校	一	九	一	一〇	四九	三一	八〇

校名	愛知高等和洋女學校	學級數	三	男	五	女	二	員數計	七	生徒數	七六
----	-----------	-----	---	---	---	---	---	-----	---	-----	----

圖書館

(昭和七年三月末現在)

館名	館員數	藏書	建物坪數	敷地坪數	昭七年度經費豫算	所在地
豐橋市立圖書館	九	二二、六七七冊	二〇七坪	一、三八六坪	四、八二二円	花田町字守下

動物園

園名	主ナナル動物	所在地
市立動物園	蒙古產大虎・駱駝・ライオン・大熊・緬羊・火食鳥・大蛇 ベリカン鳥・トナカイ	花田町字守下

神社

神社名	社格	所在地	神社名	社格	所在地
-----	----	-----	-----	----	-----

吉田神社	縣社	關屋町	鞍掛神社	村社	岩崎町字森下
神明社	全郷社	中八町	安海熊野神社	全社	魚合町
神明社	全郷社	東田町字姜郷	談合神社	全社	岩田町字西郷
八幡社	全郷社	湊町	八幡神社	全社	中岩田町字坂尻
白山比咩神社	村社	花田町字齋藤	日吉神社	全社	岩崎町字屋敷
熊野神社	全社	飯村町字本郷	神明社	無格社	岩田町字屋敷
八幡神社	全社	東八町	天白神社	全社	神明町
神明社	全社	神明町	稻荷神社	全社	東田町
神明社	全社	瓦町字通裏	白山神社	全社	三ノ輪町
松山神社	全社	花田町字松山	金刀比羅神社	全社	吉屋町
素盞鳴神	全社	全町字中郷	素盞鳴神	全社	飽海町
八劍神	全社	全町字西郷	稻荷神	全社	旭町
諏訪神	全社	中柴町字中柴	秋葉神	全社	船町

三	西	悟	龍	福	東	龍	西	一	祥	清	知	全	常
味	禪	真	運	恩	昌	岩	福	月	雲	晨	光	久	昌
院	院	寺	寺	寺	寺	院	寺	院	寺	寺	院	院	院
全	全	全	淨 土 宗	全	全	全	全	全	全	全	全	全	曹 洞 宗
全	全	關 屋 町	船 山 町	向 山 町	三 ノ 輪 町	岩 崎 町	全	全	岩 田 町	全	飯 村 町	東 田 町	瓦 町
淨	清	觀	稱	全	善	東	法	竹	勢	專	觀	龍	樹
慈	源	音	名	宗	忠	高	藏	意	至	稱	音	興	松
院	寺	院	院	軒	院	院	院	軒	軒	軒	寺	院	院
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	淨 土 宗
全	花 田 町	中 世 古 町	松 葉 町	全	全	全	全	全	全	全	全	全	關 屋 町

花	長	盛	悟	日	龍	寺
谷	養	涼	慶	信	拈	院
院	院	院	院	院	寺	名
全	全	全	全	全	曹 洞 宗	宗 派
中 世 古 町	全	全	全	全	吉 屋 町	所 在 地
正	長	西	興	賢	喜	寺
林	全	光	德	養	見	院
寺	寺	寺	寺	院	寺	名
全	全	全	全	全	曹 洞 宗	宗 派
花 田 町	花 田 町	手 間 町	全	上 傳 馬 町	新 錢 町	所 在 地

寺 院

素	道	大	素	素	道	大	素
蓋	知	巳	蓋	蓋	邊	貴	蓋
鳴	邊	貴	鳴	稻	稻	貴	鳴
社	荷	社	社	荷	荷	社	社
全	全	全	無 格 社	全	全	全	無 格 社
花 田 町 字 稻 場	東 田 町	新 川 町	本 町	花 田 町 字 稻 場	東 田 町	新 川 町	本 町
豐	天	琴	秋	豐	天	琴	秋
城	神	平	葉	城	神	平	葉
社	社	社	社	社	社	社	社
全	全	全	無 格 社	全	全	全	無 格 社
東 田 町	新 錢 町	岩 田 町	東 田 町	東 田 町	新 錢 町	岩 田 町	東 田 町





天理教高安大教會東分教會本芝支教會  
天理教南海大教會愛靜支教會東愛分教會  
愛旭宣教所

東八町  
南山町字瓦

天理教南海大教會東愛分教會豐橋宣教所

花田町字東郷

### 佛道教會

教會名	所在地	教會名	所在地
本派本願寺豐橋教院	西八町	高野山大師教會支部	瓦町
高野山大師教會櫻井寺第二支部	船町	高野山大師教會豐橋花田支部	花田町字大山塚
高野山大師教會豐橋市東新支部	東新町	日蓮宗教會所	松葉町
眞言宗醍醐派小社豐成組教會所	吳服町	日蓮宗豐橋教會所	花田町字大塚

### 神佛道以外各教會

教會名	所在地	教會名	所在地
豐橋ハリスト正教會	中八町	日本基督教豐橋教會	旭町字旭
日本メソヂスト豐橋教會	全	普及福音教會	全
日本聖公會豐橋昇天教會	新川町字市南		

## 社會事業

研究調査項目—社會的疾患—都市改良の根本義—共同責任の觀念

歐洲戰亂以來世界思潮は急激なる變化を來し、社會政策の氣運頓に勃興し、諸般の行政一つこして此の問題を度外に置く事が出来なくなり、社會事業調査員會も組織され、各種の社會施設に關し、其の研究實行に着手したのである。されど所謂其の社會事業なるものの範圍は、實に廣範多岐であつて、今俄に凡ゆる方面に亘り之れが研究施設を爲すを得ないから、逐次其の充實を期せんとする模様である。市は行路病者、同死亡者、窮民及び軍事の救護や罹災救助は、之れ迄よりも一層完全にすることを共に、人事相談、失業者の救濟及び細民調査の隣保同化事業、尙進んでは無料診療所なども追々實施する方針を探り、目下着々調査の歩を進めて居る。社會事業は總て事實に立脚しなければならぬ。現状を曝露して識者の考慮を促すのは今日の最も急務とする處である。社會狀態の調査研究は從來餘り重きを置かなかつたのであるから、將來大いに此の方面に努力を拂つて貰はなければならぬ。社會組織の缺陷から來る落伍者の數が、物質文明の進歩に伴ひ年々共に激増の勢を示し、且つ其の多くは集團を成して、所謂

細民地區なるものさへ形成するに至るのである。社會的疾患は之れから生ずるので、之れを治療することには各個人生存權の人道上の要求に合致し、他面には社會自衛又は社會向上に缺くべからざる處で、又都市改良の根本義であらねばならぬ。此の意味からして各種事業の施設計畫中、豊橋市役所内に設けられた方面委員事務所及び東田町船原の失業者救済職業紹介所は其の成績大いに見るべきものがある。此の豊橋市新川公設市場及び公益質屋は既に開設せられ、めざましき活躍をなしてゐる。尙小住宅の建設、保育所、簡易食堂の社會的施設に着手せられんことは望ま欲しく思ふ。殊に最も注意すべきは市内に於ける救済施設の助成監督であつて、今其の既設事業を分類すれば、育兒感化及び托兒、人事相談等を兼ねて居る東田の有隣財團と、豊橋盲啞學校等其の主なるものであるが、尙本市施設の無料宿泊所も好成績を舉げて居る。之れ等は周到なる社會現象並に其の原因の調査に基き、統制的有機組織に依つて一齊に其の歩を進め、共同責任の觀念に依つて、根本的に之れが改善向上を企圖しなければならぬと思ふ。此の外財團法人豊橋共存協會も設立され、托兒所も花田町に百北共存園中郷共存園があり東田町に前田共存園が設置せられてゐる。

## 土 木 衛 生

### 地方開發—都市計畫

輓近豊橋市及び接續町村の、急激なる人口増加の趨勢並に商業の殷賑、工業の隆昌其の市及び町村部落を通じ、蔚然勃興の機運を醸成せる産業の發展に伴ひ、人車の交通、貨物の集散愈々繁劇の度を加へ随つて交通機關の整備改善は、蓋し急務中の急務に屬するので、市當局は之れ等交通の狀態に鑑み、豊橋市を中心として各道路の改善、其の幹線の連絡並に主要鐵道停車場を連絡する、主要道路の改善に關しては鋭意之れを企圖するに共に地方開發に必要な道路の改修を計畫し、時運に伴ふ施設を完ふせん事を頻りに研究調査を重ね、極力目的達成に努力した結果、大正十二年都市計畫法に依る市として指定せられ同年七月一日から實施せらるゝ事となり、本年九月一日より合併せられた下地、牛川、牟呂吉田高師の一部及び市外二川町大字大岩の一部（梅田川以北）大字二川（梅田川以北）の全般に互る街路網を公布せられたので、將來本市を産業都市として、發達を誘致すべき施設たる運河網の計畫は、一面豊川の改修に呼應し漸次確定を見るべく、都市計畫地域は一昨年四月八日内閣の認可を受けて、五月一日

から施行され、商業地域、工業地域、住居地域の確定を見、公園網の発表も近かるべく、上水道は大正十五年六月三十日市會を経て諸般の準備整ひ、昭和二年七月十八日起工式舉行以來月を閱する三十三にして、工費貳百六拾有餘萬圓を以つて、豊川護岸工事の一部を残し略完成を告げ、一昨年三月二十九日通水式を行つたが、工事の概要は本市を環流する豊川の伏流水を水源とするものであつて本市を距る一里餘の上流、西下條の下地先、同川本流の河底に集水埋渠を構築し、同河畔の送水場唧筒井に導流し、同所より新設送水管路及び縣、市道を経て東南三十三町を距る多米の濶過地に送り浄水となし、同所内の高揚唧筒で浄水場を距る東八十間の、高地給水場内配水池に送り、是より計量室を経て自然流下法により、下地町に送り、將來人口増殖十六萬に達するも、送水及び配水管の増設並に相當附加工事を施すに於ては、給水に應ずべき設備である。下水道本市の地勢は東方より西方に向つて傾斜するも市街地は概ね低地に屬するも、市街地内では河川、溝渠の配置が尠いので排水不便であつて、衛生上極めて不良で、傳染病患者數等も亦相當多いので本市衛生改善の見地より下水道の計畫は焦眉の急を感ずる所となつてゐるが、いよく本年一月より着手せらるるに至つた。此の事業は七ヶ年の繼續事業で昭和十三年三月竣工の筈である。總費用三百七十四萬四千八百八十九圓といふ當市に於ては未曾有の尠大な土木事業で、彼の上水道よりも五十數萬圓多い。下水の排水は牟呂用水路を境として一は柳生川へ他は豊

川へ放流せられる。其中豊川に入る汚水は一旦處分場に於て淨化を行ふことになつてゐる。此の事業は本市衛生の改善の見地より喜ぶべきことであることは云ふ迄もないが、又、失業救済の効果も極めて顯著である。尙總工費拾七萬圓を投じて一昨年七月に起工された公會堂は、昨年八月漸く其の竣工を見た。總建坪三百五十餘坪。其の近世式文化的設備も、其の莊麗なる様式もは永く我が豊橋市の誇りとなるであらう。

## 名 勝 舊 蹟

今橋城—戸田今川の争闘—家康—織田氏—

城主の交代—最後の藩主—吉田城址

今の豊橋を吉田と稱へたのは天文年間から明治二年迄で、其の以前は今橋と謂つた。當時三河の國の守護は吉良氏であつたが、文明の頃に至つて牧野古白が此の今橋に築城したのである。然るに永正三年八月駿河の今川氏自ら軍を率ゐて今橋城を攻めた。古白は城に據つて固守する事六十餘日、惡戦苦闘を續けたれど力遂に及ばずして自殺するに至つた。是に於て城は一時田原城主戸田彈正憲光の一族、戸

田金七郎の有さなり、其の後大永の始め頃に至つて、古白の遺子傳左衛門成之と傳藏信成の爲めに再び取り返された。程なく成之は隱居して信成其の後を襲いだが、享保二年岡崎の松平清康大舉して此の城を襲來し、信成は一族郎黨と共に下地に於て戦つたが、武運拙くして守山遂に戦死し、城は一時松平氏の有に歸した。然るに天文四年吉田時代に入り、清康崩れ以後は復び戸田金七郎の有さなり、爾來十有餘年間舟形山一帶の山脈を境界として、戸田、今川兩氏の争闘が絶へなかつたが、天文十五年遂に今川義元の範圍に入つたのである。處が永祿三年五月桶狭間の戦に於て義元戦死した。其の時徳川家康はまだ松平元康と言つて今川氏の味方であつたが、其の翌四年に至つて義元の子氏眞との間に不和を生じ、隣交は斷絶となつた。

其の頃吉田城には今川氏の將小原肥前守鎮實が居つて、東三河に於ける諸將の人質を此の城に預つて居たが、家康に屬したものは悉く龍拈寺口と言ふ處で殺して仕舞つた。家康が岡崎から大舉して此の城を攻めたのは永祿七年の初めであるが、其の頃今の豊橋市の東郊に當る仁連木にも城があつて戸田主殿介重貞が居つた。此の重貞も早くから家康に心を寄せて居たが、何分にも其の母が人質として此の城に容れてあつた爲め、反旗を翻す前に先づ母を奪ひ戻さなければならぬと考へ、種々工夫した末に首尾よく目的を達した。家康は翌八年鎮實を亡ぼし此の城を酒井左衛門尉忠次に與へた。斯くて程なく今川

氏は衰へ三河は勿論遠江全國までも徳川氏の有に歸するに至つたが、其の代り今度は追々甲州から武田氏の浸人が始まつた。即ち元龜三年十二月信玄軍を率いて遠江と三方ヶ原に於て戦つたが、此の合戦は徳川氏の大敗となつた。信玄は勢に乗じ更に三河に進入し、天正元年正月南設樂郡の野田城を陥れたけれど、此の戦の爲めに逝去するに至つたのである。然るに天正三年四月其の子勝頼大兵を擧げて仁連木城を襲ひ、續いて吉田城に迫つた。夫れから長篠の合戦となつたが、今度は武田方の大敗となり、之れが原因で天正十年三月織田信長と家康との爲めに根據を侵略されて、武田氏全く滅亡するに至つたのである。其の年六月信長は本能寺に於て明智光秀に殺され、之れより秀吉の舞臺となつた。秀吉と家康は小牧山で一度戦を交へたけれど、程なく相和し天正十八年秀吉が小田原に北條氏を征伐したときにも、家康も國を明けて秀吉に捧げ自分も之れに従軍した。其の役の終つた處で家康は秀吉の爲めに關東州へ移封せられたのである。此の時忠次は既に隱居し其の子家次が相續して居たが、之れも家康に従つて上州碓井の城に移つた。家次の後へ來たのは池田三左衛門輝政で、牛久保、新城、田原の三城も其の配下に屬し、知行十五萬二千石を領する事となつた。仁連木城は此の時廢止されたのである。然るに慶長五年關ヶ原の合戦後、輝政は功を以て播州姫路五十二萬石に封ぜられ、吉田城を去り其の後を繼いだのが松平立藩頭家清であつた。封祿三萬石。其の後慶長十七年に松平主殿介利忠、寛永九年に水野隼人正忠

清、同十九年に水野監物忠善と數々城主の更迭があつたが、祿高は矢張り多い處で四萬五千石位のものであつた。正保二年小笠原壹岐守忠知城主となつたが、夫れより長矩、長祐、長重と四代の間繼續した小笠原氏に次いで元祿十年久世出雲守重之が來たが、之れも在城十年にして寛永二年牧野備前守成春と交代した。成春の次は其の子大學成英で牧野氏に代つて此の地の城主となつたのは大河内氏である。大河内氏は正徳二年信親の時代に初めて古川から移封されて來たのであるが、享保十四年一度濱松に轉封になり、之れに代つたのが松平豊後守資訓で、之れも寛永二年になつて再び大河内氏と交代になつた。封祿七万石。當時大河内氏は信親の代であつたが、夫れから信禮、信明、信順、信實、信璋を経て信古に至つたので、之れが最後の城主で、吉田城址は今の歩兵第十八聯隊の營舎がある處である。

#### 仁連木城—其の來歴—宗光—重貞の戦死—

#### 天正の戦—康長の戦功

東田の北に朝倉川と言ふ小川が流れて居る。之れは蟬川の下流であるが、此の川に臨める高地に仁連木城の舊址がある。此の城の來歴に就いて種々な説があるけれども、明應年中戸田彈正左衛門尉宗光の築いたものであると言ふのが事實らしい。宗光は初め碧海郡上野の城に居たが、寛正六年五月徳川家康

から六代目の祖に當る松平和泉守信光と共に室町幕府の命を受けて、三河國內の一揆を平定した事は蜷川親元の日記なきにもあつて有名な話である。宗光は其の後居を渥美郡の老津に移し、更に一色氏の後を襲いで永正十三年の頃、田原に根據を構へたが、其の後更に時を得て此の仁連木にも城を築き、田原をば其の子憲光に委ねて自分は此處に移つた。それは多分明應初年頃であると思ふ。宗光卒去の後には憲光及び其の次男吉光も亦此處に居城した事實がある。其の後はこの城も暫らく放棄されてあつた様に考へられるが、天文十年に至つて憲光の曾孫に當る丹波守宜光が牛窪の加治村から之れを再興したのである。永祿七年吉田城から其の母を奪ひ返した主殿介重貞は即ち其の子であつた。重貞は其の年の十一月吉田の城攻めに於て戦死したので、其の後を弟の甚平忠重が襲いだ。然るに之れも亦永祿十年五月病没した。當時其の子の康長はまだ六歳の子供であつたから、一族の戸田傳十郎吉國と言ふ人が之れを扶けて陣代となつた。即ち元龜三年武田信玄の襲來に方つても、天正三年五月武田勝頼の來攻に際しても共に吉國後見の時代であつたが、其の家臣等の奮闘によつて天正の戦には敵首十八級を得、以つて家康の臺覽に供したと傳へられて居る。之れより先康長は松平の姓を賜はり、家康の同母妹久松氏に配したのであるが、後屢々徳川氏の爲めに戦功を立て、天正十八年家康の關東移封と同時に武藏國東方一萬石に封ぜられたのである。爾來仁連木城は遂に廢城となつて今日に至つたのであるが、今は大口喜六氏の

所有地であつて一部農園となつて居る。

豊川の清流—古名の色々—橋梁移轉—  
地子御免—貨物の運上—舊幕時代の湊

豊橋の架つて居る川が即ち豊川である。其の源を北設樂郡段戸山に發し、南流して段嶺村を過ぎ、作手川を容れて寒狭川となり、南設樂郡長篠村に至り三輪川を合し、更に西南に流れて寶飯、八名、豊橋二郡一市の界を爲し、前芝村に至つて渥美灣に入るのであるが、延長凡そ十七里である。此の河の古名の飽海河と謂ひ、後吉田川とも言つたが近世一名姉川の稱があつたが併し此の名は餘り世に知られて居らぬ。昔飽海郷と渡會郷との間に志香須賀と言ふ豊川の渡しがあつたが、地形の變遷が甚だしいので今其の位置が明かでない。元は此の名を然菅と書いたが、中世から白菅の字を訛用したるものと思はれるが、其の後又更に鹿菅なごとも書かれて居る。豊橋を渡れば下地町である。橋の此方が船町で、此町は池田輝政の橋梁移轉に依つて漸次發展を來たしたものであるが、船乗又は運送渡世の者が多かつたので慶長五年關ヶ原の役には城主輝政の命を受けて伊勢の津又は松坂等へ往來したのである。夫れが緣故となつて爾來引續き藩主から船役を命ぜられ、地子御免の上此河に輸入する貨物の運上を取る事をも認め

られて居たのである。而も舊幕時代には此處以外豊川沿岸の地に湊を許されなかつたから、伊勢又は尾張地方に交通する船舶は常に橋下に輻輳して、船町の繁昌は著しかつたものであつた。

## 豊橋名代行事

笹踊—煙火—鬼祭

元祿時代と謂へば誰も知らぬものはない江戸全盛の時であるが、其の矯奢な風は地方にまでも流れて來たので、彼の吉田の花火なごも此の頃から盛大になつた。勿論此の花火は關屋町縣社吉田神社の祭禮に於て行はれたのであるが、元同社の神官であつた石田家の記録に依つて見るに、初めて建物（花火の一種）の大きなものが出來たのは元祿十三年の事で、長さ十三間幅三間半で其の費用は廿四兩か、つたとしてある。舊幕時代には祭禮中本町の通行を禁じ市街に於て打揚げたのであるが、今は社前と豊川の水上に於て行つてゐる。又同祭禮に要する本町の山車に幕の出來たのも元祿十六年の事であるとしてあるが、萱町から出る笹踊の装束も元は木綿の浴衣であつたのを元祿に入つて絹更紗染に改め、其の十七年に至つて緞子のものが出來た様子である。そのみならず右の記録の中には其の笹踊を嘶す爲めに

大太鼓や小太鼓の打手の中に頗る名人が出来たと言ふ事が詳しく記してある。吉田神社の祭禮は毎年七月十三日より三日間であつて、吉田時代の風流を偲ぶ。十三日神前で行はれる大筒手筒、十四日豊川の清流で放揚する打揚花火、十五日の笹踊は古の田樂の遺風で十騎の武者行列、頼朝の姥、饅頭喰ひ等は今なほ此の祭には盛んに行はれ天下名代のものになつて居る。此の外豊橋市に於ける年中行事として主なるものは中八町縣社神明社の鬼祭である。此の社の例祭は毎年二月十四、五の兩日を以つて行はれ、俗に之れを鬼祭と稱へて居るが、其の式は天狗の面をつけ鳥帽子小具足を着けた武者が赤鬼を追ひ拂ふのである。此の外田樂の遺風である四天師のチンバ踊、笹良子のボンテンザラの神事を始め黒鬼や榎玉争ひの神事、お頭様の渡御になる順序で、此の神事は極めて奇なる祭で全國にその例を見るこゝ稀である。

## 附近町村を探ねて

豊川鳳來寺鐵道沿線—豊橋以西—豊橋以東—  
半島方面—八名郡及下地方面

我が東三河は古い歴史を有つて居るだけに、今尙王朝以來の遺跡を初め室町期即ち群雄割據時代の城

壘並に古戰場其他武將の墳墓が到る處に見受けられる。先づ豊川鐵道の沿線では、小坂井町の東端に在る風祭で名高い菟足神社、次には徳川氏の葵の紋所が起つたと言ふ由緒ある伊奈城址、牛久保では今川義元並に舊一色城主一色刑部少輔の墓がある大聖寺、山本勘助の墓所で知られて居る長谷寺等あり、尙夫れから程遠からぬ處に牧野民部丞成定のために建立した光輝庵がある。牛久保驛より僅かに進むと豊川に達するのである。此處には吒呷尼尊天によつて天下に有名な妙嚴寺の稻荷ミ、外に三妙寺の名蹟縣立蠶業試験場豊川支場及び全陸上競技聯盟公認の大グラウンドがある。豊川稻荷の新本殿は三十餘年前より計劃せられ、昭和五年四月漸く竣工したといふ甚だ豪壯なものである。國幣小社砥鹿神社は三河一宮驛を去る三丁ばかり東方で祭神は大己貴命である。次は長山驛で砥鹿神社奥宮に鎮座する三河第一の高山本宮山で、此の山へは此處から頂上まで約五十餘町である。尙此の驛には會社直營の遊園地があつて、四季遊客を喜ばしてゐる。東上驛附近に牛の瀧あり、直下六十尺、行路極めて平坦、驛から八町夏季避暑客極めて多く。次は野田城驛で笛の名人村松芳休の劉曉たる妙音に誘はれて武田信玄が狙撃せられた野田城址へは僅かに五町。更に新城驛に入るこ菅沼定盈の墓がある。此の地は豊橋以北の小都會で、新城區裁判所、帝室林野局名古屋支局新城出張所、縣立農蠶學校を始め高等女學校等があつて商工業亦盛んである。此の驛から約十町、東新町より五町で櫻の名所櫻淵に至る事が出来る。豊川鐵道の終

點は長篠驛で豊川、鳳來寺兩線の接続する所である。此の驛を距る十四町餘寒狭川、三輪川二流交叉の處に長篠古城址があつて、附近一帶は武田、徳川、織田、三氏の古戰場である。長篠役は天正三年五月甲斐の武田勝頼が、家康の臣奥平信昌を此の城に圍みたるに起因し、此の時鳥居強右衛門の最後は人口に膾炙せる處であつて、其の墳墓は今も鳥居驛から一町餘の寒狭川畔に存在して居る其の他此の合戦に戦死せる甲將馬場美濃守信房、内藤修理亮昌豔、山縣三郎兵衛昌景、其の他の墳墓は今尙此の地を中心として附近に散在し、行人をして低回顧眄の情に堪へざらしむものがある。

鳳來寺の舊時を偲ばむとするものは鳳來寺口驛で田口鐵道に乗り換へれば、僅かに三哩で鳳來寺驛に至る。山麓から本堂薬師如来迄は九町を登る。同寺は堆古天皇の勅願により僧利修の開創せる處。天台、眞言の二宗を兼ねて居たが今は合して眞言一宗となり、極めて古い由緒を有つて居る。全山の風物總て壯觀を極めたものであつたが、數度の火災に逢つて今日舊態を存せず、僅かに三門並に東照宮祠などは尙昔時の面影を留めてゐる。東照宮は慶安四年の創立で後度々修繕を加へられてゐるが、尙明かに徳川初期の様式を見るべきものである。殊に此の山は阿蘇火山脈の終點に位し悉く火山岩で構造され、極めて斷壁千仞の奇勝に富み、夏季は夕方から曉へかけて靈鳥佛法僧鳴き、遠隔の地から杖を引くものが多い。尙此の田口鐵道沿線は山寺の瀧、田峰の溪谷、東海一の長隧道、田峰の觀音、鹽津温泉、添澤

温泉等勝景の地、遊覽地に富んでゐる。

三河大野驛から行者越に道を取れば鳳來寺へ最も近徑で、大野橋を渡る三八名郡大野町である。此の地名勝に富み、商工業亦盛んなれば驛には設備整ひたるホテルを設け、旅客の便を計る。町はずれば天神山公園と不動瀧がある。此處から山吉田村阿寺迄は二里餘りで自動車の便がある。飛泉豊かで七折の高さ百二十五尺、阿寺の七瀧と稱し、夏猶寒きを覺ゆる避暑地である。湯谷驛は所謂鳳來峽の中間で三輪川(板敷川)を隔てた對岸は縣道別所街道が坦々として北へのび、恰かも耶馬溪を見るが如き風趣をたゞゑて居る。川の流れに沿ひ小盆地から湧出づる源泉がある。之れを鳳液泉と謂ひ萬病に効顯ありて、驛は此處にホテルを經營し旅客をして心行くまで享樂せしむるこの事である。三河旗原驛は佳景に富み幾多の鳳來峽名所がある。此の地山深きに平地多ければ都人の別莊地として有望である。三河川合驛は本郷、御殿、振草を経て信州新野及び飯田に至るこ、浦川中部を過ぎ久根銅山水窪に至る分岐樞要地點である。此の驛から凡そ三十町餘りで有名なる乳岩に達す。乳岩の巖洞我を呑むが如く眼前に迫る更に登れば天空に聳ゆる雄大奇蹟たる天然石門に達す。其の美に打たれ茫然たらざる者はない。幾多巖層よりなる連峰の雅趣を一眸に收め、川合の村落は浮繪の如く眼界に入る。春の山を飾る石楠花、深山躑躅の咲き亂る、麗はしさ、夏の納涼、秋の紅葉に衣を染むべき地。此の附近は多くの詩人墨客の杖を



引くべき地である。されば驛に於てホテルを直營し遊覽に便せしむ。

尙舊東海道沿線豊川鐵橋の以西では御油驛の縣社御津神社、大恩寺、御油海岸等で、蒲郡は元西郡に蒲形を合せたもので、今は海水浴場の設けがあり、風光頗る明媚にして夏季は各地から避暑に遊ぶ者が却々多い。愛電で豊川を越へ伊奈驛へ入る。此の附近は伊奈城のあつた處で其の名を知られ、愛電、豊川線の分岐點であつて將來を囑目されて居る。國府は舊東海道で往時三河の國府があつた處で、同町の白鳥に總社があり、八幡村に國分寺と八幡社があつて、國府に關係の淺からざるものである。西明寺入口の鷺坂等もよく知られて居る。八幡社の社殿は特別保護建造物で有名なものである。八幡村より東北二里餘りの山中にある財賀寺は、聖武天皇の勅願により行基の開創した名刹である。赤坂驛は古來から紅葉の名所で知られて居る宮路山に近く、宮路山は持統天皇の舊蹟であつて、山頂の遠望天下に絶し、春の蕨狩、秋の茸狩に佳く、長澤、山中、本宿は東海道古驛路で古くから知られて居る。

次に東海道鐵道沿線を豊橋から東へ向へば、二川町の岩屋觀音、高師山、雲谷の普門寺、小松原の東觀音寺、鷺津の本興寺が歴史的に世上著聞の場所であるが、殊に岩屋觀音が其の最もなるものであらう又一方下地町になるに聖眼寺、水神社、大蚊里、正岡、花井寺、古宿、大村など比較的史實に富んだ處にして指を屈せねばなるまい。夫れから八名郡方面では法言寺、石卷山、石卷神社、本坂峠、嵩山正宗

寺、月谷大洞窟等最も名ある處になつて居る。

更に渥美半島方面に於ては、渥美電鐵の沿線高師に入れば小池附近に潮音寺がある曹洞宗に屬し行基の開創せるものも傳へられて居る。此の寺の觀音は潮道の觀音と稱し舊來有名なるものである。師團口驛は騎兵第四旅師團司令部を始め、教導學校等の所在地であつて、明治四十一年十一月第十五師團司令部が此の地に置かれて以來著しく發展したのであるが、大正十三年五月軍備縮少により、第十五師團司令部を廢止せられ、今は第三師團の管下になつて居る。串刺の製造に於て有名なる大崎へは師團口より約一里である。芦原驛より十町程で野依毘沙門天へ行く事が出来る。大清水驛附近には渥美電鐵に於て娛樂場として野球グラウンドを設け、常に試合を催し好球家を喜ばして居る。老津、谷熊、豊島の各驛より多賀壽命殿長仙寺の名刹へ何れも十三町である。此の寺は天平十七年行基の開創で、現在の本堂は延寶九年頃の建築である。天白、神戸の各驛を経て田原驛に入るに、此處は明應年間戸田宗光の築いた田原城址等がある。田原藩の老臣にして書畫を能くし、詩文に長じ、更に海外の事情に通じたる渡邊華山の墓は同町城寶寺境内にあつて、三宅氏の祖兒嶋高德を祀る縣社巴神社は舊城址の一隅に鎮座するのである。又田原藩の執政で火技を研究し造船の法に長じ、後擧げられて藩政を掌つた村上藩致の墓も同町にあつて、片濱海水浴場へは同町より十八町である。その他神戸神明社、阿志神社、長興寺、泉村鸚鵡石、福



江泉福寺、伊良湖岬、石門、村松、豊川河口では牟呂、神野新田、前芝など何れも三河の名所舊蹟として廣く紹介する價值がある。特に牟呂農林省水産試験場豊橋分場の如きは大いに見るべきものがあると思ふ。

豊橋市内諸組合

名	稱	所在地	組合町氏名	住所
三遠玉	絲製造同業組合	指笠町	小淵義一	渥美郡二川町大字大岩
愛知縣製絲業	組合東三支部	花田町字石塚	石川蹟次郎	向山町字中畑
東三繭絲	問屋同業組合	指笠町	富安鷹次	花田町字西宿
東三醬油	同業組合	花田町字石塚	服部彌八	船
豊橋麻糸	同業組合	新川町字市南	井口末治	中世古町字中世古
豊橋米穀	商同業組合	花田町字石塚	近田繁吉	旭町字旭
三河藥品	賣藥同業組合	札木町	笥寛	札木町
愛知縣豊橋毛筆	同業組合	花田町字狭間	白井豊助	花田町字狭間
三河疊製造	同業組合	鍛冶町	朝倉由太郎	鍛冶町

豊橋市養蠶	同業組合	西八町	藤田力作	岩田
東三蠶種	製造同業組合	花田町字手棒	大林和助	吉川
東三蠶種	販賣同業組合	花田町字手棒	市川米治郎	中柴
豊橋輸出麻	眞田工業組合	新川町字市南	吉濱勇次郎	中八
豊橋鐵工	業組合	全	朝倉輝雄	渥美郡二川町
豊橋麵類	業組合	札木町	太田喜平	札木町
豊橋洗染	クリーニング業組合	中八町	横山和一	中八
三河搾乳	畜産組合	中柴町字道六	小笠原八百三	瓦
豊橋牛乳	組合	全	近藤壽市郎	小池
豊橋漁業	組合	東八町	大野又三郎	關屋
豊橋吳服	太物商組合	花園町	田中平六	關屋
豊橋木材	商工組合	關屋町	鈴木莊平	關屋
東三繭絲	屑物商組合	花田町	杉山鐵郎	花田
豊橋洋品	雜貨商組合	本町	鈴木要五郎	本町

豐橋紙商組合  
 豐橋砂糖商組合  
 豐橋製菓商組合  
 豐橋建具指物業組合  
 豐橋洋服業組合  
 豐橋上傳馬料理屋組合  
 豐橋松葉料理屋組合  
 豐橋中央料理同盟會  
 豐橋石炭商例月會  
 豐橋靴商組合  
 豐橋米穀肥料問屋組合  
 豐橋飼料商組合  
 豐橋薪炭商組合  
 豐橋魚市場仲買人組合

萱町 全町 本町 中八町 本町 中八町 上傳馬町 松葉町 西八町 關屋町 西八町 西八町 花田町字小田原 船町 西八町 中八町

來本吉平  
 福谷藤太良  
 藤城福次郎  
 粟生菊三郎  
 白井遼一  
 河內伊之吉  
 犬飼孫一  
 伊藤皆藏  
 山田末治  
 朝倉唯作  
 增田才吉  
 豐橋飼料合名會社  
 白井淺治郎  
 牧市太郎

萱町 全町 本町 中八町 本町 中八町 上傳馬町 松葉町 西八町 關屋町 西八町 西八町 花田町字小田原 船町 西八町 中八町

東三獸肉商組合  
 豐橋屑物商組合  
 豐橋古着商組合  
 豐橋陶磁器業組合  
 豐橋藥業組合  
 豐橋筆筒業組合  
 豐橋足袋商組合  
 豐橋旅館組合  
 豐橋質屋業組合  
 豐橋料理屋業組合  
 豐橋酒醬油商組合  
 豐橋建築會  
 豐橋洋物商組合  
 豐橋銅鐵商組合

手間町 花田町字狹間 吳服町 全町 本町 湊町 松葉町 關屋町 松葉町 關屋町 松葉町 關屋町 松葉町 旭町字餌指 魚治町 銀治町

小林彌八  
 三浦久兵衛  
 林榮次郎  
 內藤金平  
 小柳津小次郎  
 杉浦榮之助  
 山田貞二郎  
 石田又市  
 佐藤佐一  
 遠藤猶次郎  
 中村平吉  
 小笠原博通  
 鈴木三省平  
 神戶小三郎

手間町 花田町字狹間 吳服町 全町 本町 湊町 松葉町 關屋町 松葉町 關屋町 松葉町 關屋町 松葉町 旭町字餌指 魚治町 銀治町

豐橋染物張物業組合  
 豐橋生絲製造組合  
 豐橋製本商組合  
 公認豐橋古物商組合  
 豐橋豆腐製造業組合  
 豐橋製綿商組合  
 豐橋和服裁縫組合  
 豐橋履物商組合  
 豐橋鹽干魚商組合  
 東三織物雜貨卸商組合  
 豐橋鷄卵卸問屋組合  
 豐橋家具業組合  
 豐橋煙草小賣人組合  
 東三雨傘製造業組合

新錢町  
 花田町字石塚  
 船町  
 新錢町  
 花田町字東郷  
 銀冶町  
 魚町  
 花園町  
 新川町  
 上傳馬町  
 關屋町  
 吳服町  
 上傳馬町  
 曲尺手町

河合儀助  
 鈴木磯太郎  
 安中松藏  
 富安福太郎  
 小川重次  
 今泉小市  
 藤城良吉  
 牧野政次郎  
 富田伊三郎  
 柳原國太郎  
 河合致郎  
 梅田了郎  
 山下善九郎  
 中島周右

新錢町  
 下地町  
 船町  
 新錢町  
 花田町字東郷  
 銀冶町  
 魚町  
 花園町  
 新川町  
 上傳馬町  
 關屋町  
 吳服町  
 上傳馬町  
 曲尺手町

公認豐橋土地家屋商事組合  
 豐橋貨物自動車組合  
 豐橋貸自動車組合  
 正榮連置屋組合  
 和合連置屋組合  
 勇多加連置屋組合  
 遊廓連置屋組合  
 遊廓料理業組合  
 豐橋漬物商組合  
 豐橋茶業組合  
 豐橋日刊新聞組合  
 東參窯業組合  
 豐橋桶商組合  
 東三銀行同盟會

中柴町字道六  
 瓦町字通  
 花田町字西宿  
 松葉町  
 西八町  
 上傳馬町  
 東田町字五反畑  
 全  
 札木町  
 全  
 西八町  
 飯村町  
 中世古町  
 札木町

鳥居春吉  
 丸地清次  
 林品次  
 田中千一  
 稻垣貞平  
 西村東一郎  
 夏目新太郎  
 白井美之次  
 兼子しん  
 太田順二  
 中村彦八  
 岡本芳三郎  
 山田亮雄  
 宇賀雄

中柴町字道六  
 瓦町  
 花田町字西宿  
 松葉町  
 西八町  
 上傳馬町  
 東田町字五反畑  
 全  
 札木町  
 全  
 西八町  
 飯村町  
 中世古町  
 中世古町

豐橋銅鐵工業組合	花田町字松山	鈴木仙太郎	花田町字松山
豐橋銅鐵金物商組合	本町	石田しづ	本町
豐橋化粧品小間物小賣商組合	花田町字狹間	秦柳藏	湊町
豐橋株式現物團	魚町	服部泰吉	魚町
豐橋蹄鐵工組合	花田町字東郷	坂井藤一	寶飯郡小坂井町
東三土木建築請負業組合	全町字絹田	山田鐵心	花田町字絹田
豐橋荒物卸商組合	曲尺手町	鈴木倉藏	曲尺手町
豐橋ラヂオ商組合	札木町	杉浦六二	札木町
豐橋代書業組合	花田町字稗田	坂柳綾平	花田町字稗田
東三鷄業組合	瓦町	淺野益治	寶飯郡牛久保町
豐橋川魚問屋組合	起花田町字北新	山田豐作	花田町字北新起
豐橋寫真業組合	花田町字西宿	樋熊順太郎	花田町字西宿
豐橋葬具商組合	紺屋町	田邊福藏	紺屋町
豐橋小賣市場組合	手間町	大山銀藏	花園町

豐橋理髮業組合	中柴町字道六	近藤吉太郎	松葉町
豐橋湯屋業組合	船町	戶田作次郎	船町
豐橋火災保險協會	新錢町	牧壽一	新錢町
豐橋米穀取引所取引員組合	花田町字石塚	小野田俊平	花田町字石塚
豐橋西洋料理組合	西八町	伊藤皆藏	西八町
豐橋煙火製造組合	花田町	棧敷常治	花田町字西宿
豐橋鹽小賣人組合	松葉町	山崎兼吉	松葉町
豐橋鍍金業組合	新川町字市南	近藤勝八	新川町字市南
豐橋倉廣同業會	花田町字西宿	東陽倉庫株式會社 豐橋支店	花田町字西宿
東三蓄音機商組合	紺屋町	田邊福藏	紺屋町
豐橋表具師組合	西八町	神村銑太郎	西八町
豐橋青果市場仲買人組合	西新町	大津勘吉	西新町
豐橋青果出荷組合	新川町字市南	長尾俊	新川町字市南
豐橋蒲鉾竹輪製造組合	魚町	加藤甚八	魚町

豐橋紙函製造業組合	曲尺手町	菅沼常次郎	曲尺手町
豐橋漁具商組合	新川町	山本安太郎	新川町
三河輪業組合豐橋支部	中世古町	山本乙吉	中世古町
豐橋印刷業組合	西八町	田中周平	西八町
豐橋時計商組合	吳服町	永井綱太郎	吳服町
三遠玉糸製造同業組合豐橋部落會	指笠町	內藤耕藏	東豐田
豐橋水問屋組合	松葉町	辻坂直次	松葉町
東三鑄物業組合	花田町字稗田	坂神馨	花田町字稗田
有限責任豐橋購買組合	岩田町	宮林桂次郎	岩田町
有限責任三遠革正生絲販賣組合	本町	鈴木德三郎	鍛冶町
有限責任豐橋信用組合	神明町	鈴木小三郎	鍛冶町
有限責任豐橋市購買組合	新川町字新錢	杉浦六郎	寶飯郡牛久保町
有限責任三州製飴業購買組合	花田町字東郷	鈴木澄衛	瓦町
有限責任豐橋住宅組合	全町字石塚		

豐橋市內娛樂場

種類	所在地	名稱	電話番號
有限責任大禮記念住宅組合	湊八町	中山仲次	湊三町
有限責任昭和住宅組合	西八町	那賀山繁	東田町
御大禮記念豐橋市前田耕地整理組合	中世古町字西ノ又	佐藤彌平	瓦町
豐橋東部土地區劃整理組合	瓦町字通	丸地清次	全
豐橋東田土地區劃整理組合	東田町字東前山	藤田牧太郎	
財團法人豐橋銀行集會所	中世古町字西ノ又	山田亮一郎、住野成一	
豐橋養雞組合聯合會	西八町	河合孜郎	關屋町
東三酒造組合	東八町	白井九一郎	寶飯郡國府
東三清涼飲料水組合	全	近藤竹次郎	花田町松山

演劇 吳服町 東雲座 二二二三

新 曲 尺 手 町	花 田 町 字 於 樹 木	向 山 町	花 田 町 字 西 宿	住 所	全 全 東 西 全
鈴 木 庄 吉	鈴 木 萬 藏	安 井 淺 吉	前 田 正 治	大 村 勇	鈴 木 浦 久 三 郎
四 六 三 二	四 四 八 四		二 六 二 二	電 話 番 號	二 一 五 六
					四 五 七 八
					二 三 〇 四
					三 九 四 八

計  
理  
士

中 東 八 町	東 八 町	住 所	全 演 藝	全 全 全 全 全 映 全
小 木 曾 丈 三 郎	堀 端 房 一	氏 名	上 傳 馬 町	花 田 町 字 石 塚
二 三 一 二	五 二 八 五	電 話 番 號	河 蝶 原	豐 橋 劇 場
			キ ネ マ バ ワ	大 盛 館
			シ 盛 館	松 竹 館
			帝 國 館	帝 國 館
			座 座	座 座
			四 四 〇 四	二 五 二 七
			四 四 〇 四	三 六 七 七
				二 二 二 五
				二 七 四 一

辯  
護  
士



東八町	足立爲人	三九六一
談合町	西垣實	呼出 三六〇二

衆議院議員

住 所	氏 名	電 話 番 號
船 町	大 口 喜 六 郎	二 三 四 三
小 池 町	近 藤 壽 一 郎	三 四 四 一

愛知縣會議員

住 所	氏 名	電 話 番 號
銀 冶 町	神 戶 小 三 郎	二 三 二 八
關 屋 町	河 合 孜 郎	二 一 六 五

豊橋市部所得調査員

住 所	職 業	氏 名	電 話 番 號
本 町	繭絲問屋業	河 合 藤 四 郎	三 一 八 〇 三
關 屋 町	鷄卵問屋業	河 合 孜 郎	二 一 六 五
瓦 町 通	保 險 代 理 業	井 上 全 七 郎	二 一 六 五
松 葉 町	吳 服 太 物 商 業	神 野 三 郎	二 一 六 五
西 新 町	吳 服 太 物 商 業	鈴 木 清 郎	二 一 六 五
東 田 町 字 五 反 畑	貸 座 敷 業	中 村 虎 吉	二 一 六 五
花 田 町 字 稻 場	農 業	山 本 滿 平	二 一 六 五
船 町	乾 物 商 業	加 藤 發 太 郎	二 一 六 五

都市計畫愛知地方委員

住 所	氏 名	電 話 番 號
-----	-----	---------

住 所	職 業	氏 名	電 話 番 號
中世古町字前田	材木商	近藤木平	四九九〇
湊町	醫師	木本長作	二一七五
花田町字大塚	肥料製造業	熊田嘉平	五一七六
全町字西郷	精練業	彦坂只一	三九七六
新川町字市南	青乾物商	長尾俊	五四八一
花田町字百北	會社員	原田仙二	四〇四七
吉川町字吉川	蠶種製造業	大藤和助	五一四三
中世古町字中世古	藥劑師	加藤審治	四四三三
北島町字北島	製絲業	大澤松次	四七四一
東田町字西郷	新聞記者	地幸之助	二二三四
下地町字豐麻	生絲製造業	鈴木磯太郎	二六七九

豊橋市會議員

住 所	氏 名	電 話 番 號
東田町字東前山	今谷西卓	二七三二
中八町	福谷元次	二二三三

同 臨 時 委 員							
船 町	全 町	西 八 町	東田町字五反畑	花田町字西宿	全町字流川	全町字百北	瓦町字七反田
大 口	服 部	大 森	村 田	內 藤	內 山	原 田	三 浦
喜 六	彌 八	俊 治	義 直	太 郎	榮 次	仙 二	源 六
二 三 四 三	二 〇 〇 八	五 〇 一 七	二 一 六 四	三 九 七 〇	二 七 二 五	四 〇 四 七	二 四 八 五

席次	住	所	職	業	氏	名	電話番號
全	町字東郷	薪炭商		田島	圓	作	三一六
松	葉町	會社員		柳原	瀨	一	三一七
花	田町字西宿	請負業		杉原	吾	一	三一七
大	崎町字平地	農業		河合	品	次	二〇八
花	田町字狹間	自動車業		林	鯉	三	二〇八
全	町字中郷	製菓業		安田	三	郎	四六八
小	池町字鴨田	製綿業		中島	景	一	四六八
小	池町字原下	農業		伊藤	鉸	作	四六八
野	依町	農業		豐田	連	郎	四六八
船	依町	陶器業		加藤	彦	郎	四六八
大	村町字北川原	農業		白井	安	郎	四六八

豊橋商工會議所議員

鍛冶町	松葉町	花田町字五丁	全町字西宿	神明町	花田町字神田	下條西町字杉本	菰口町字菰口	魚町	東田町字西脇	植田町字西塚	東田町字東郷	東田町字東郷	牟呂町	花田町字稻場
金物商	藝妓置屋業	製絲業	繭絲屑物商	銃砲火藥商	雜貨商	農業	雜貨商	海產物商	農業	醬油製造業	農業	農業	農業	農業
神戶	田中	大羽	松尾	安藤	大場	菅沼	伊藤	內藤	大塚	浦川	高橋	芳賀	山本	
小三郎	竹千郎	幸次郎	角次郎	恒治郎	惣十郎	要藏	小要	真小	貞次	右衛門	實藏	保藏	滿平	
二三八	五四七	三三六	二八五	三二〇	三六八	三六八	三六八	三六八	三六八	三六八	三六八	三六八	三六八	



書理	全	全	常	全	副	會
記事			議		會	頭
佐鈴	白	加	今	河	山	神
原木	井	藤	西	合	本	野
代澄	淺	發		致	安	三
作衛	治	太	卓	郎	郎	郎
全	全	全	全	全	常	議
書記補					議	員
渥高	白	山	氏	金	河	合
美橋	井	田	原	子	合	藤
清	權	末	助	丈	藤	四
治明	八	治	造	作	郎	郎

五	四	三
東	中	旭
八	八	町
町	町	字
		旭
豐		
橋		
市		
長		
丸	福	田
茂	谷	部
藤	元	井
平	次	勝
		藏
二〇〇一	二二三三	五三九〇

二	一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二	三一
東	船	萱	西	松	花	關	本	全	花	萱	花
八			八	葉	田	屋		町	田		園
町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町
辯	衆	毛	薪	保	生	鷄	繭	材	麻	紙	醬
護	議	筆	炭	險	絲	卵	絲	木	真	類	油
士	院	販	竹	代	製	間	間	商	田	商	製
	議	賣	商	理	造	屋	屋	業	製	造	造
	員	業		業	業	業	業	商	造	業	業
鈴	大	上	白	神	清	河	野	林	來	大	
木	口	林	井	野	水	合	田	文	本	山	
五	喜	定	淺	三	熊	致	榮	治	吉	銀	
六	六	吉	治	郎	太	郎	太	郎	平	藏	
			郎	郎	郎	郎	郎	郎	平	藏	
二一五六	二三四三	三二一九	五三九五	二六二五	二九〇四	二一六五	二〇三八	五〇三八	二四二八	二五一〇	

備	土	屋	邦	男	小	近	藤	豊	平
雇	堀	部	さ	と	使	石	原	や	す
全	棚	橋	か	つ	全				
				子					

### 當會議所沿革

當會議所は明治二十六年三月二十五日の創立で、其の區域は當時の渥美郡豊橋町を中心に同郡田原、寶飯郡下地、同牛久保、同小坂井、同前芝の七ヶ町村で、明治二十七年頃に事務所の位置は、豊橋町大字關屋百五十番戸に在つたらしく、其の後明治三十六年十月頃に、同町大字上傳馬内百十九番戸に移り、之れと同時に從來の區域を變更して現在の地區に限局したのである。更に明治四十一年十月一日に豊橋市大字西八百三十七番戸に、大正四年二月十五日同市大字中柴乙百二十番戸、同十年五月六日同市大字本町二十九番地に同十五年十月二日花田町字石塚四十五番地の五に移轉したのであるが、市の發展に伴つて事務は益々繁劇を加ふるに共に、多年の懸案であつた新築の氣運熟し、昭和三年一月二十八日の定

期總會に於て同字四十二番地の一に、二ヶ年度に渉る繼續事業として工費六萬圓を以て新築するに決し四月六日地鎮祭を行ひ、同月三十日起工十月九日落成を告げ、同十六日に移轉した。此の間數次の變遷を重ね、随つて役員の変更も屢々行はれて居る。而して最近五ヶ年間の經費豫算は昭和三年度金壹萬九千六百圓、同四年度金壹萬七千七百貳拾圓、同五年度金壹萬八千七百圓、同六年度金壹萬六千圓、同七年度金壹萬五千八百圓と逐年減少してゐる。尙會頭、副會頭の異動は左の如くである。

就職年月日	會頭	副會頭
明治二十七年	加藤 六藏	三浦 碧水
全 二十八年九月	三浦 碧	
全 二十九年五月	三浦 碧	
全 三十三年十一月七日	瀧崎 安之助	
全 三十四年三月二十七日	瀧崎 安之助	
全 三十四年七月九日	中尾 十郎	
全 三十四年十二月七日		遠藤 安太郎

大正六年五月一日  
 全 七年十月七日  
 全 十年四月二十六日  
 全 十二年九月二十八日  
 全 十四年五月八日  
 昭和四年四月十五日  
 全 五年三月七日  
 全 五年三月十八日

白井直次  
 高橋小十郎  
 高橋小十郎  
 山本安太郎  
 福谷元次  
 福谷元次  
 福谷元次  
 神野三郎

中野廣三郎  
 高橋小十郎  
 服部廣三郎  
 中野廣三郎  
 服部廣三郎  
 山本安太郎  
 河合岩彌太郎  
 山本安太郎  
 山本安太郎  
 山本安太郎  
 神野三郎  
 神野三郎  
 山本安太郎  
 山本安太郎  
 河合岩彌太郎  
 山本安太郎

全 三十六年十月一日  
 全 三十八年五月十九日  
 全 三十九年六月二十五日  
 全 三十八年五月十九日  
 全 四十年十月一日  
 全 四十一年八月三十日  
 全 四十二年五月三日  
 全 四十四年五月五日  
 大正二年五月一日

遠藤安太郎  
 遠藤安太郎  
 高橋小十郎  
 服部彌八郎  
 服部彌八郎  
 田中新  
 田中新

杉田八五郎  
 杉田八五郎  
 中野廣三郎  
 大山西廣三郎  
 鈴木復次郎  
 遠藤安太郎  
 原田萬九郎  
 中原萬九郎  
 中西廣三郎  
 中西廣三郎  
 服部廣三郎  
 神戶廣三郎  
 中西廣三郎  
 中西廣三郎  
 中西廣三郎  
 中西廣三郎  
 中西廣三郎

昭和七年十月廿七日印刷  
昭和七年十月三十日發行

豐橋市瓦町字臨濟寺前十一番地

發行兼編輯人

鈴木

澄衛

豐橋市西八町八十六番地ノ六

印刷人

藤田庄太郎

豐橋市西八町八十六番地ノ六

印刷所

藤田印刷所

豐橋市花田町字石塚四十二番地ノ一

發行所

豐橋商工會議所

電話 三三一二番

① 日本紙業株式會社特約店  
② 北國製紙株式會社特約店

和洋諸紙



來本紙商店

豐橋市萱町五十四番地  
電話 三二四二八番  
振替東京八四六五番



袋物・鞆類製作  
紹ごし仕立と材料

御注文御好みに應じ

製作いたします

豊橋市大手通



杉浦袋物鞆店

製作設備の完備  
各種材料豊富  
技術優秀價格低廉

電話 五〇八九番

振替 名古屋四六六番  
口座 東京五〇四〇八番

◇御一報次第定價表送呈◇

画

豊橋市花町西宿

蠶絲周旋株式会社

電話 二二〇二〇番

**名 驛**

新花柳小師司令部 豊生豊 豊橋田橋  
 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田  
 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田  
 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田

—— 線業開未    ——— 線業開

**渥美電鐵株式會社**

<ul style="list-style-type: none"> <li>○貨物車連絡</li> <li>○大清水グラ</li> <li>○三河セメン</li> <li>ト線連絡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○省線豊川線</li> <li>○市内電車</li> <li>○連絡運輸</li> <li>○自動車連絡</li> <li>○運</li> </ul>
--	--

豊橋市松山町  
電話二七〇番

**長山**

遊園地 娛樂場 三信鐵道 至飯田 川合 乳岩 峽末鳳 添沢

豊橋 豊川 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田 豊田

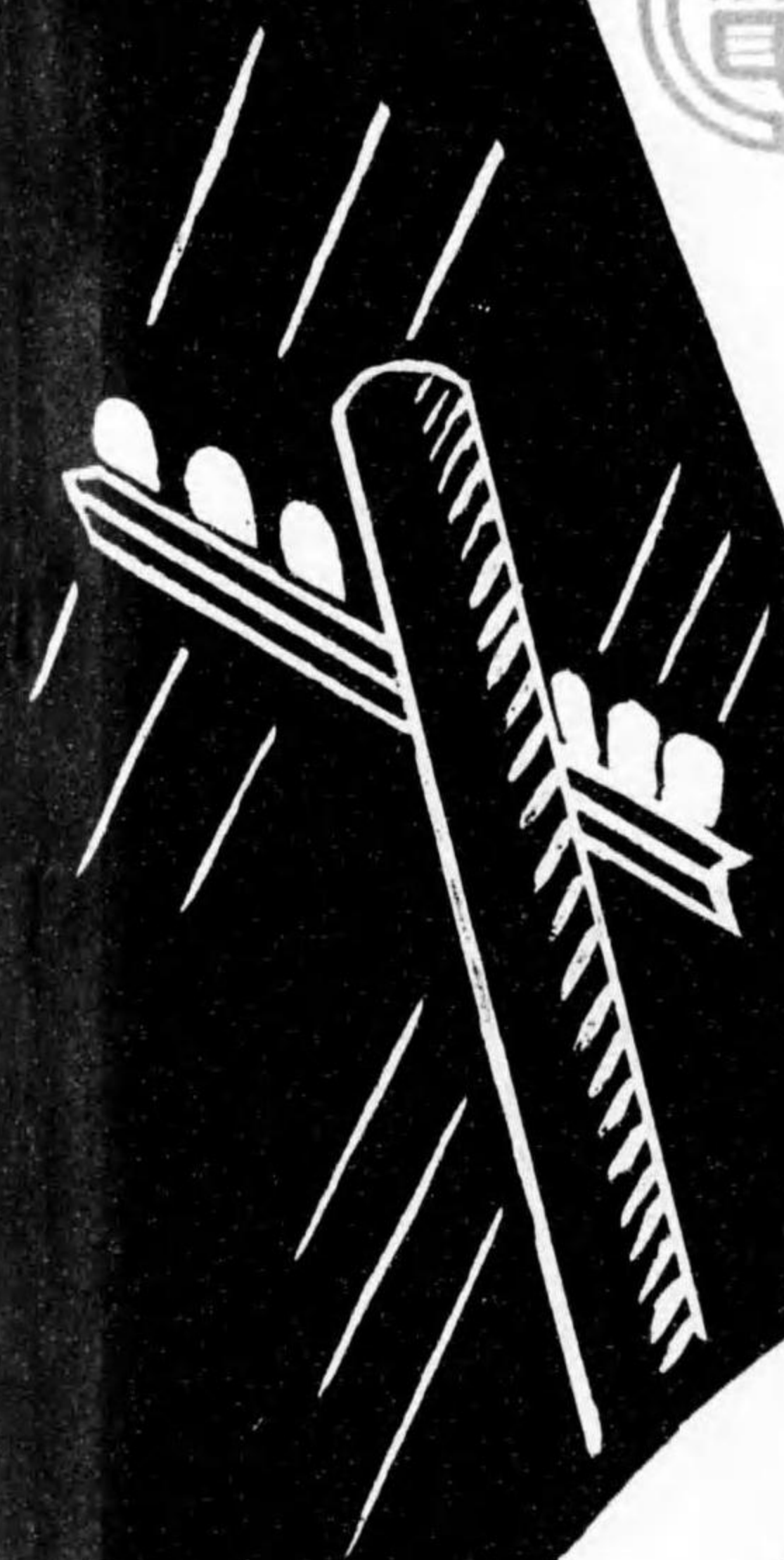
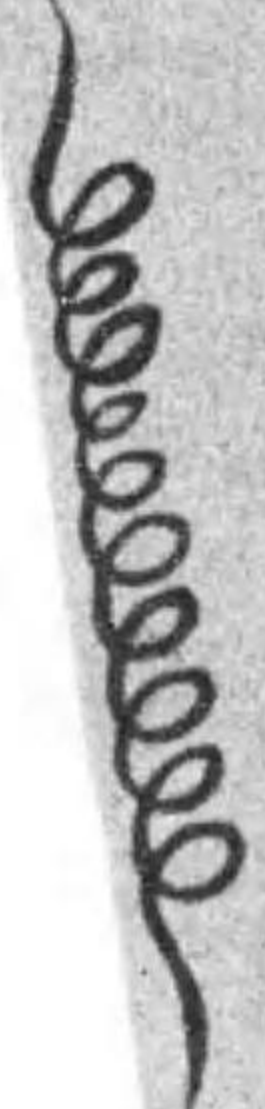
明朗清澄  
秋の月見！  
冬の雪景！

一段と情緒深き  
**長山へ！**

新設  
ラヂウム温泉  
娛樂場

道鉄川豊

中部電力株式会社



豐橋市關屋町

豐橋營業所

電話代表三一五番



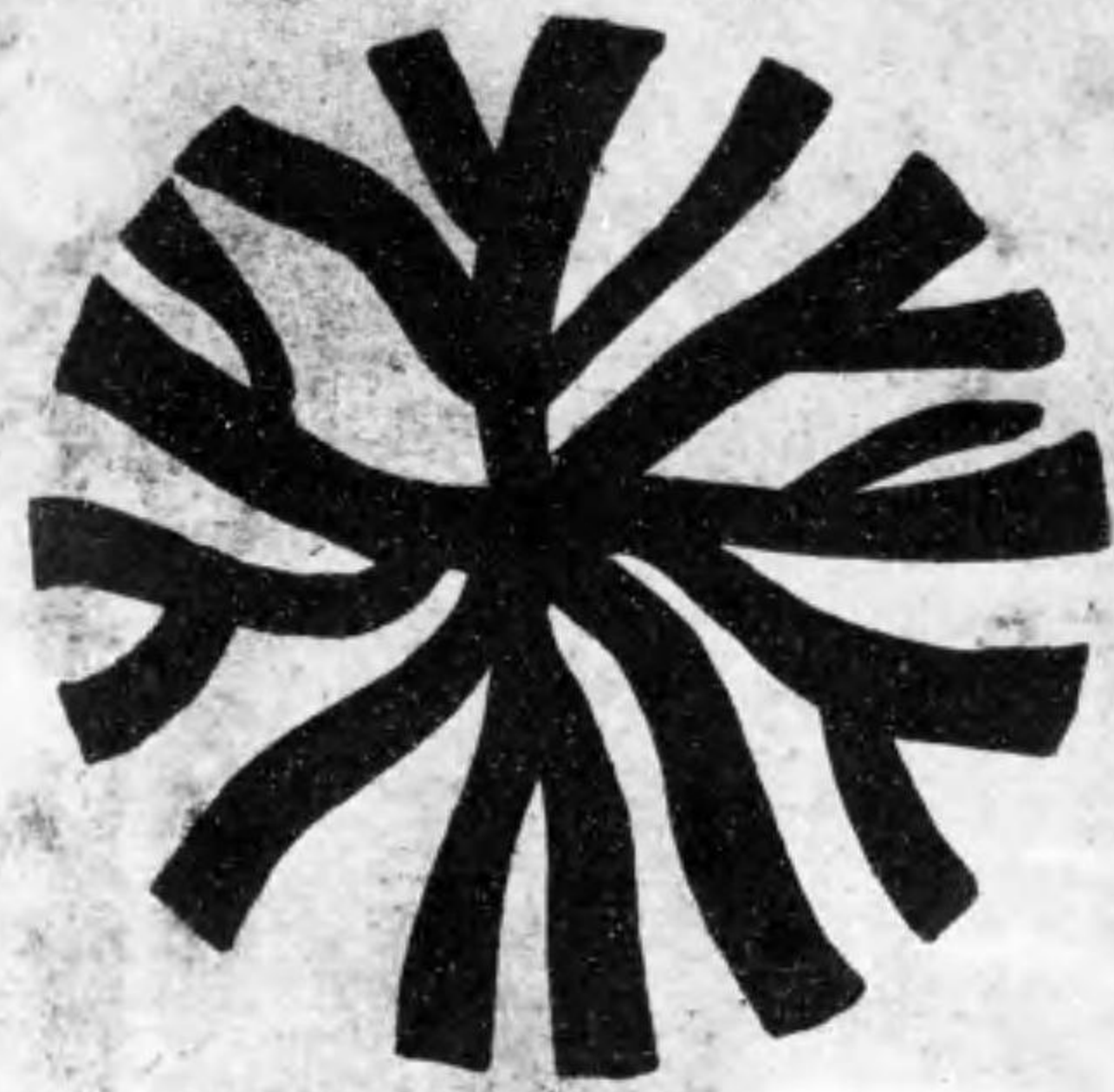
豐橋市花田早

豐橋瓦斯株式会社

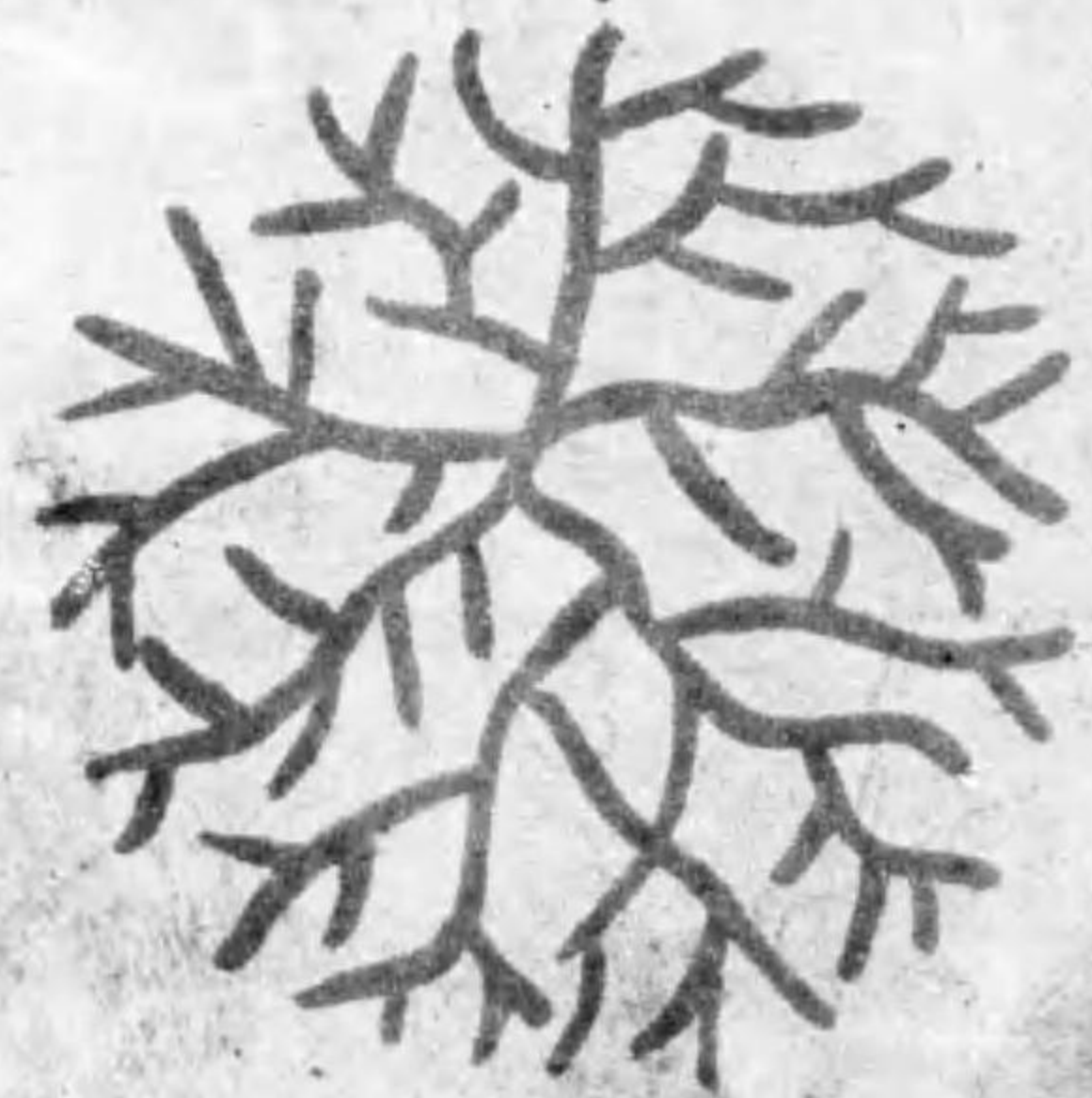
電話二五二三番

豊橋名産

安の海苔製品



味焼味 味厚味  
味濃味 味細味  
味貴味



豊橋市魚町

山安商店

電話二四一三五番

終